

EU Indicators

欧州経済指標コメント：3月ドイツ I f o 企業景況感

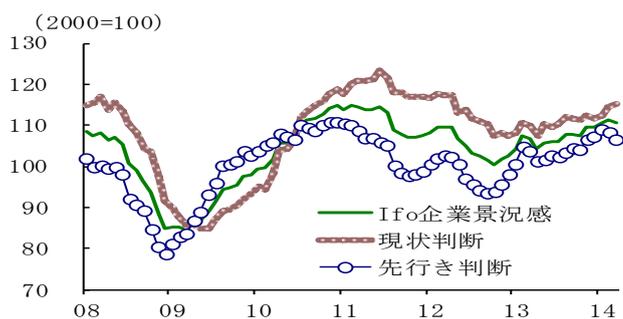
発表日：2014年3月25日(火)

～視界不良で業況慎重化～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

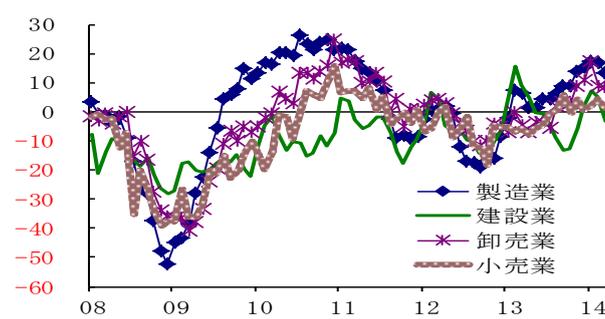
- 3月のドイツの I f o 企業景況感指数は2011年7月以来の水準を記録した前月から5ヶ月振りに低下。内訳は現状判断が3ヶ月連続で改善した一方、先行き判断が2ヶ月連続で低下し、ヘッドラインの指数を押し下げた。指数の水準は2008-09年の金融危機以前の好況期や金融危機後のV字型回復局面に匹敵する高さを維持しており、引き続き堅調な景気拡大が示唆されるが、中国景気減速、新興国不安、ウクライナ情勢の不安定化など外部環境の悪化が重石となり、先行き判断が全般に慎重化している。こうした姿は既報のZEW景況感やPMI指数でも確認されていた通り。
- 業種別の業況判断は、製造業と小売業の現状判断が上向いた一方、先行き判断は製造業、建設業、卸売業、小売業が揃って慎重化。同時に発表されたサービス業の業況判断も、現状改善・先行き慎重化と同様の姿。外部環境の悪化が長期化していることで、内需部門の先行き判断にも影響し始めている。
- 同日発表されたフランスの3月の I N S E E 企業景況感の前月から不変の100（四捨五入前は前月：99.5→今月：100.4で微増）。輸出受注（▲20.7→▲12.9）の冷え込みが大きく緩和した一方で、受注全体（▲21.8→▲20.7）の冷え込み緩和は僅かで、全体の生産見通し（▲6.0→▲10.6）が慎重化した。
- PMI指数同様に、外部環境の悪化がドイツの業況を下押しする一方で、フランスの業況には大きな悪影響が出ていない。出遅れが目立ったフランスの業況が上向いてきたことは望ましい変化だが、牽引役のドイツの勢いにこのまま驕りが出てくるようだと、さらなるアップサイドは期待できない。

■ドイツ：I f o 企業景況感



出所：Ifo

■ドイツ：I f o 業種別の先行き判断



出所：Ifo

■ドイツ I f o 企業景況感

	2013				2013				2014			
	2Q	3Q	4Q	1Q	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企業景況感(総合)	105.3	107.2	108.8	110.9	107.6	107.8	107.5	109.4	109.5	110.6	111.3	110.7
現状指数	108.9	111.1	111.7	114.0	112.0	111.4	111.3	112.3	111.6	112.4	114.4	115.2
先行き指数	101.8	103.4	106.0	107.9	103.4	104.4	103.9	106.6	107.4	108.9	108.3	106.4
業況判断	3.3	7.0	10.2	14.1	7.8	8.2	7.7	11.3	11.5	13.7	14.9	13.8
製造業	5.8	10.4	14.1	18.9	11.2	12.1	11.2	15.5	15.6	17.7	19.8	19.1
建設業	1.6	-3.8	-2.5	-0.2	-4.0	-6.0	-5.9	-2.8	1.3	2.4	0.6	-3.5
卸売業	-1.4	4.5	9.8	12.9	8.3	5.6	8.1	11.8	9.4	15.3	12.6	10.9
小売業	-0.9	4.1	4.6	7.1	3.1	6.4	3.6	5.3	4.8	4.3	8.4	8.5

出所：Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。